



日山忠郎議員

教育行政

子どもの教育充実のため「教育振興運動」に力を

子・親・学校・地域・行政一体の活動が必要

質問 十年程前「いじめ」が全国的に問題となったが、昨今、また社会問題化していることは、多くの要因が複雑に絡み合っているためだと思う。

核家族化、少子化の進行する中、子どもの教育は大人の責任という使命感で支えられている教育振興運動に力を入れるべきではないか。

馬場教育委員長 県の教育振興運動は全国に誇れる素晴らしい運動であるが、いかに素晴らしい内容であっても「絵に画いた餅」であってはならない。

昨今は「いじめ」を原因とする悲しむべき事件が頻繁に起きている。子どもを救わなければならない。その意味で教育振興運動は子・親・学校・地域・行政の五者が一体となってそれぞれの責任を果たし、子ども達の健やかな成長を願って活動しなければならぬ。

「山田の子どもは山田の宝」と考えて「地域の子どもは地域で育む」をモットーに、今までの活動の在り方を反省・改善し、PTA型の活動から、地域型の活動に全地域を変えていかなければならないと考えている。

鯨と海の科学館

指定管理者制度の導入を検討

効率性と有効性の評価は

質問 「鯨と海の科学館」は児童・生徒の体験学習の場など社会教育施設として重要な役割を果していると思う。しかし、収支面は厳しく平成十七年から冬季は休館としたが、運営面での

効率性と有効性についてどのように評価しているか。

松尾教育長 平成十七年度からの冬季臨時休館及び職員一人を兼務とするなど効率的運営に努めた結果、人件費除きの運営費は、千

三百六十二万八千円となり平成十年度と比較して二千七百三十五万円が縮減された。

また、鯨の骨格標本をはじめとした展示物や3D立体映像シアターなどの映像の活用、体験教室などとおして、子どもたちが海や自然環境に対する関心を高めることができるように努めている。今後の運営計画は、冬季臨時休館の定着を図りながら、将来的には指定管理者制度の導入について検討していく考えである。

町の考えを聞く



指定管理者制度の導入が検討されている鯨と海の科学館